

平成 23 年度
財団法人日本交通公社 自主研究

東北地方太平洋沖地震後の陸中海岸地域 における観光資源の状況把握調査

報告書

平成 23 年 6 月

財団法人**日本交通公社**

まえがき

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震に伴う東日本大震災におきまして、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。また、被災自治体をはじめとした関係者の皆様の復旧・復興支援活動へのご尽力につきまして、深く敬意を表します。

陸中海岸国立公園を有する陸中海岸地域は、日本有数のリアス式海岸などの特徴ある海の自然美や、海と人々の生活や産業が結びついた地域の姿などを目的として多くの観光客が訪れていた地域ですが、東北地方太平洋沖地震(以下、地震)は、それら観光資源に甚大な被害をもたらしました。

地震発生から約 3 ヶ月が経った現段階では、各種ライフラインの復旧や瓦礫の撤去、被災者のための仮設住宅の建設等が最優先課題として取り組まれています。あわせて、地域経済の復興もまた重要な取組課題であり、観光の着実な復興はその大きな推進力になるものと考えます。

本調査は上記のような背景をふまえ、陸中海岸地域の観光資源の地震後の状況を把握するとともに、課題を抽出することを通して、同地域の今後の観光復興への取り組みにおける基礎的な資料としていただくことを目的として実施したものです。

観光資源の現状把握に当たっては、地震発生から約 2 ヶ月が経った平成 23 年 5 月中旬から下旬にかけて、当財団の研究員が実際に調査員として現地に赴き目視した内容を元としています。

本調査の結果が、復興に携わる自治体や関係者の皆様の活動に少しでもお役立っていただければ幸いです。

平成 23 年 6 月
財団法人日本交通公社

東北地方太平洋沖地震後の陸中海岸地域における観光資源の状況把握調査
報告書

<目次>

第1章 陸中海岸地域の観光資源の現状把握.....	1
1-1 調査方法.....	1
(1) 調査対象地域.....	1
(2) 調査対象とした観光資源.....	1
(3) 調査方法と調査日程.....	2
1-2 調査結果の一覧.....	4
1-3 市町村別の調査結果.....	12
(1) 久慈市.....	12
(2) 野田村.....	14
(3) 普代村.....	16
(4) 田野畑村.....	18
(5) 岩泉町.....	21
(6) 宮古市.....	23
(7) 山田町.....	26
(8) 大槌町.....	28
(9) 釜石市.....	29
(10) 大船渡市.....	31
(11) 陸前高田市.....	33
(12) 気仙沼市.....	35
(参考) 松島町・東松島市.....	38
第2章 陸中海岸地域の観光復興に向けた論点整理.....	41
2-1 観光資源の状況.....	41
(1) 資源（利用）タイプ別にみた状況.....	41
(2) 地域別にみた状況.....	42
2-2 観光復興に向けた論点.....	43
参考資料1 対象地域の観光の状況.....	47
参考資料2 対象地域の市町村別概要.....	51

第1章 陸中海岸地域の観光資源の現状把握

1-1 調査方法

(1) 調査対象地域

本事業における対象地域は陸中海岸国立公園の関係市町村とした（対象市町村は下表参照）。

※現地調査に当たっては、周辺の観光地である松島町、東松島市の主要な観光資源についても実施している。

(2) 調査対象とした観光資源

観光資源台帳*（財団法人日本交通公社）や各種パンフレットやウェブサイト（環境省東北地方環境事務所、各市町村観光協会等）を情報源として、調査対象とする対象地域内の観光資源を抽出した。

調査対象とした観光資源の数（市町村別）は下表の通りである。

*（財）日本交通公社による調査。全国の主要な観光資源を抽出し、「美しさ」「珍しさ」「大きさ（長さ、高さ）」「古さ（新しさ）」「地方色」に注目した評価基準に基づいてそれらのポテンシャルを評価したもの。

調査対象とした観光資源の数（市町村別）

県名	市町村名	観光資源数
岩手県	久慈市	5
	野田村	5
	普代村	8
	田野畑村	7
	岩泉町	5
	宮古市	17
	山田町	7
	大槌町	1
	釜石市	5
	大船渡市	5
	陸前高田市	6
宮城県	気仙沼市	17
計		88

県名	市町村名	観光資源数
宮城県	松島町	6
	東松島市	3

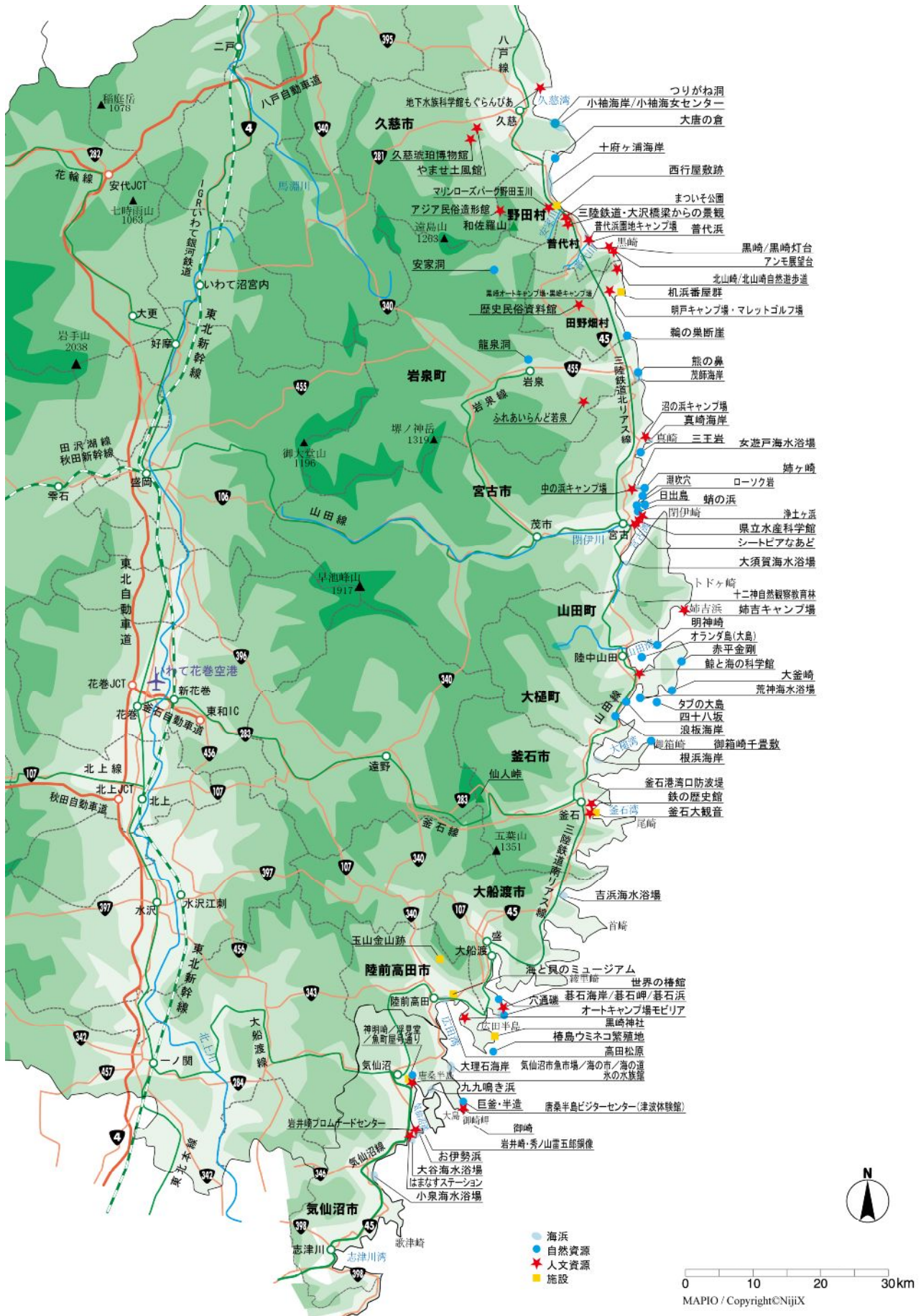
(3) 調査方法と調査日程

調査員が現地に赴き、目視により状況を把握した。調査実施日は以下の通りである。

調査日程

調査エリア	実施日
山田町、大槌町	平成 23 年 5 月 16 日 (月) ~17 日 (火)
久慈市、野田村	5 月 19 日 (木) ~20 日 (金)
普代村、田野畑村、岩泉町	5 月 21 日 (土) ~22 日 (日)
宮古市	5 月 23 日 (月) ~25 日 (水)
気仙沼市、松島町、東松島市	5 月 25 日 (水) ~27 日 (金)
釜石市、大船渡市、陸前高田市	5 月 30 日 (月) ~31 日 (火)

調査対象とした観光資源と立地



1-2 調査結果の一覧

各観光資源の調査時点における状況は以下の通りである（表の見方は9ページを参照）。

市町村	区分	資源名称		状況評価		特記事項	観光資源評価 ポテンシャル	
				資源	利用			
久慈市	博物館・美術館	久慈市内陸部	久慈琥珀博物館		◎	◎	影響は見られない。	—
	施設	やませ土風館			◎	◎	影響は見られない。	—
	施設	久慈湾沿岸	久慈地下水族科学館もぐらんぴあ		×	×	資源(施設)全壊。利用不可能。夏休みを目処に中心街で代替施設における営業再開予定。	—
	岩石・洞窟	小袖海岸一帯	つりがね洞		◎	○	資源(洞窟)に影響は見られない。付近のガードレール、海岸への階段が一部損壊。	—
	施設	小袖海女センター			×	×	資源(施設)全壊。利用不可能。	—
野田村	施設	野田村内陸部	アジア民俗造形館		◎	◎*	影響は見られない。6/1より営業中。 (*観光協会HPによる)	—
	施設		マリンローズパーク野田玉川		◎	◎	影響は見られない。	—
	岩石・洞窟	十府ヶ浦海岸一帯	大唐の倉		◎	○	資源(断崖)に影響は見られない。景観対象となる野田港は瓦礫が散乱している(アクセス自体は可能)。	—
	海岸		十府ヶ浦海岸	活動対象	△	×*	資源(海浜)は、松林消失、汚損。サービス施設(トイレ、シャワー)消失のため利用不可(*関係者ヒアリングによる)。	—
				鑑賞対象	△	◎	資源(海浜)は汚損、後背の園地や松林の大半が消失。	
史跡		西行屋敷跡		—	×	資源の状況は未確認。通行禁。利用不可能。	—	
普代村	施設	まついそ公園		×	×	資源(護岸の一部やバーベキューサイトなど園地内の建物)消失。利用不可能。	—	
	地域景観	三陸鉄道・大沢橋梁からの景観		○	◎	資源(漁港の景観)は消失している。資源(自然景観)には影響は見られない。	—	
	海岸	普代浜一帯	普代浜	活動対象	△	×*	資源(海浜)は、松林消失、浜の形状変化、汚損。サービス施設(キャンプ場施設、レストハウス)消失のため利用不可(*関係者ヒアリングによる)。	B
				鑑賞対象	×	◎	資源(海浜)は、松林消失、浜の形状変化、汚損。	
	キャンプ場		普代浜園地キャンプ場		×	×	資源(キャンプ場施設)消失。利用不可能。	—
	海岸	黒崎	黒崎	鑑賞対象	◎	◎	影響は見られない。	B
				活動対象	◎	◎	影響は見られない。	
	現代建造物	黒崎一帯	黒崎灯台		◎	◎	影響は見られない。	—
キャンプ場	黒崎オートキャンプ場・黒崎キャンプ場		◎	◎	影響は見られない。	—		
海岸	アンモ浦展望台		◎	◎	影響は見られない。	—		

市町村	区分	資源名称		状況評価		特記事項	観光資源評価
				資源	利用		ポテンシャル
田野畑村	海岸	北山崎一帯	北山崎	◎	◎	影響は見られない。	SA
			北山崎自然遊歩道	○	○	資源(断崖・海岸景観)は、一部で瓦礫散乱・浜の形状変化。遊歩道が一部損壊、隧道が通行禁止。	—
	地域景観	机浜番屋群		×	×	資源(番屋群)消失。利用不可能。	—
	キャンプ場	明戸キャンプ場・マレットゴルフ場		×	×	資源(施設)消失。利用不可能。	—
	海岸	鵜の巣断崖一帯	鵜の巣断崖	◎	◎	影響は見られない。	B
			鵜の巣断崖自然遊歩道	○	○	資源(断崖・海岸景観)は、一部で瓦礫散乱、松林消失。遊歩道が一部損壊、隧道が通行禁止。	
博物館・美術館	歴史民俗資料館		◎	◎	影響は見られない。	—	
岩泉町	岩石・洞窟	龍泉洞		◎	◎	影響は見られない。	A
	岩石・洞窟	安家洞		◎*	◎*	影響は見られない。(*公式WEBサイトによる)	A
	海岸	茂師海岸一帯	熊の鼻	◎	○	資源(断崖)への影響は見られない。一部施設損壊。	—
	海岸		茂師海岸	○	○	資源(海岸景観)は、瓦礫が散乱。海岸沿いの道が一部損壊。	—
	施設	ふれあいランド岩泉		◎	○	資源(施設)への影響は見られない。一部のコテージで被災者を受入中。	—
宮古市	海岸	大須賀海水浴場		○*	×*	資源(海浜)は瓦礫が散乱。周辺が瓦礫置き場となっており通行不可。利用不可能。(*関係者ヒアリングによる)	—
	キャンプ場	姉吉キャンプ場		×	×	資源(キャンプ場施設)消失。利用不可能。	—
	原野	十二神自然観察教育林		◎*	◎*	影響は見られない。(*関係者ヒアリングによる)	—
	岩石・洞窟	トドヶ崎		◎*	×*	資源(景観)への影響は見られない。トドヶ崎に通じる遊歩道は一部損壊。利用不可能。(*関係者ヒアリングによる)	B
	海岸	女遊戸海水浴場		△	×	資源(海浜)は巨大な構造物の破片が散乱。利便施設は消失。利用不可能。	B
	キャンプ場	中の浜キャンプ場		×	×	資源(キャンプ場施設)消失。利用不可能。	—
	岩石・洞窟	姉ヶ崎		◎	◎	影響は見られない。	—
	博物館・美術館	県立水産科学館		◎	◎	影響は見られない。調査時無料開放中。	—

市町村	区分	資源名称		状況評価		特記事項	観光資源評価	
				資源	利用		ポテンシャル	
宮古市	海岸	浄土ヶ浜 一帯	浄土ヶ浜一帯の景観 (遠景)		◎*	○*	資源(浄土ヶ浜一帯の景観)には影響は見られない。モーターボート観光、貸ボート観光は営業を中止。7月を目処に観光船の再開と浄土ヶ浜エリアの復旧工事の完了を予定。(*関係者ヒアリングによる)	A
	海岸		浄土ヶ浜	活動対象	○	×	資源(海浜)は瓦礫などが散乱。営業中止中のため利用不可能。	-
				鑑賞対象 (近景)	○	○	資源(浄土ヶ浜一帯の景観)は瓦礫などが散乱。遊歩道は一部、手すりの損壊や、路面が消失。	
	海岸	蛸の浜		○	×*	資源(海浜)は一部瓦礫が散乱。浄土ヶ浜と蛸の浜をつなぐアクセス道が損壊しているため利用不可能。(*関係者ヒアリングによる)	-	
	島	日出島		◎*	×*	資源(島)に影響は見られない。観光船営業中止のため、利用不可能。(*関係者ヒアリングによる)	-	
	岩石・ 洞窟	ローソク岩		◎*	×*	資源に影響は見られない。観光船営業中止のため、利用不可能。(*関係者ヒアリングによる)	-	
	岩石・ 洞窟	潮吹穴		-	×	資源の状況は未確認。倒木により、アクセス道閉鎖のため、利用不可能。	-	
	海岸	真崎海岸		-	×	資源の状況は未確認。通行禁止のため利用不可能。	-	
	キャンプ 場	沼の浜キャンプ場		×	×	資源(キャンプ場施設)消失のため利用不可能。	-	
	岩石・ 洞窟	三王岩		◎	◎	資源への影響は見られない。	-	
施設	シートピアなあと		×	×	資源(施設)は損壊しているため、利用不可能。	-		
山田町	島	オランダ島		-	×	資源の状況は未確認。観光船の発着所が損壊しているため利用不可能。	-	
	岬	赤平金剛		-	×	資源の状況は未確認。船の発着場所となる漁港が損壊しているため利用不可能。	-	
	岬	大釜崎		-	×	資源の状況は未確認。船の発着場所となる漁港が損壊しているため利用不可能。	-	
	博物館・ 美術館	鯨と海の科学館		-	×	資源(施設)の状況(内部)は未確認。周囲ががれき置き場となっているため利用不可能。	-	
	海岸	荒神海水浴場		-	×	資源の状況は未確認。周辺の道路が通行不可のため利用不可能。	-	
	島	タブの大島		◎	○	資源(景観)に影響は見られない。展望台(四十八坂)は一部立入禁止箇所あり。	-	
	岬	明神崎		-	×	資源の状況は未確認。船の発着場所となる漁港が損壊しているため利用不可能。	-	

市町村	区分	資源名称		状況評価		特記事項	観光資源評価 ポテンシャル
				資源	利用		
大槌町	海岸	浪板海岸	活動対象	△	×	資源(海浜)は大部分が消失。立入禁止のため利用不可能。	-
			鑑賞対象	△	○	資源(海浜および松林)は大部分が消失。道路から眺めることは可能。	
釜石市	岬	御箱崎千畳敷		-	-	資源の状況は未確認周辺の道路が通行不可のため利用は不可能。	-
	現代建造物	釜石港湾口防波堤		◎	◎	影響は見られない。	-
	社寺／施設	釜石大観音		◎	○	資源(施設)に影響は見られない。入館は可能だが展望台は立入禁止。	-
	博物館・美術館	鉄の歴史館		-	×	資源(施設)の状況は未確認。自衛隊の拠点となっているため利用不可能。	-
	海岸	根浜海岸		×	×	資源(海浜)消失。利用不可能。	-
大船渡市	海岸	基石海岸一帯	基石浜	△	×	資源(海浜)規模縮小。道路損壊のため利用不可能。	B
	岬		基石岬	◎	◎	影響は見られない。	B
	岩石・洞窟		穴通磯	◎	◎	影響は見られない。	-
	博物館・美術館		世界の椿館	○*	×*	資源(施設)の一部損壊。休館中のため利用不可能。(*施設入口の掲示による)	-
	海岸	吉浜海水浴場		×	×	資源(海浜)消失。利用不可能。	-
陸前高田市	海岸	高田松原		×	×	資源(海浜・園地)消失。利用不可能。	B
	社寺	黒崎神社		◎	○	資源に影響は見られない。広田半島への道路が一部損壊。	-
	史跡	玉山金山址		◎	◎	影響は見られない。	-
	島	椿島ウミネコ繁殖地		◎	○	資源に影響は見られない。広田半島への道路が一部損壊	B
	キャンプ場	オートキャンプ場モビリア		◎	×	資源(施設)に影響は見られない。被災者受け入れ中のため利用不可能。	-
	博物館・美術館	海と貝のミュージアム		×	×	資源(施設)全壊。利用不可能。	-
気仙沼市	施設	海の市・氷の水族館		△	×	資源(施設)の一部が損壊。利用不可能。	-
	地域景観	海の道		△	○	舗装、街路樹等が流出。舗装損壊のため、一定の制約の上であれば利用可能	-
	岬／社寺	神明崎・浮見堂		△	×	資源(浮見堂)が損壊。立入禁止のため利用不可能。	-
	地域景観	気仙沼市魚市場		△	×	資源(施設)の一部が損壊。利用不可能。	-
	地域景観	魚町屋号通り		×	×	資源(街並みを構成する建物)が全壊もしくは半壊。利用不可能。	-
	海岸	大理石海岸		-	×	資源の状況は未確認。倒木や土砂崩れにより道路が閉鎖されているため利用不可能。	-

市町村	区分	資源名称		状況評価		特記事項	観光資源評価 ポテンシャル
				資源	利用		
気仙沼市	海岸／ 岩石・洞窟	巨釜・半造		◎	○	資源(折石等)に影響は見られない。遊歩道の一部が倒木や崖崩れのため通行禁止。レストハウスやキャンプ場は営業中止中。	B
	海岸	九九鳴き浜		○	○	資源(海浜)が一部汚損(ゴミや流木の漂着)している(鳴き砂には影響は見られない)。瓦礫などが散乱しているため、一定の制約の上であれば利用可能	—
	施設	唐桑半島ビジターセンター(津波体験館)		◎	◎	影響は見られない。	—
	岬	御崎		◎	○	資源に影響は見られない。遊歩道の一部が倒木や崖崩れで通行禁止。	—
	岬	岩井崎一帯	岩井崎	◎	○	資源(眺望・潮吹き岩)に影響は見られない。一部の設備(遊歩道、トイレ等)が損壊のため、一定の制約の上であれば利用可能。	—
			秀の山雷五郎像	○	◎	資源の一部(台座)が損壊。利用に影響は見られない。	—
	施設	岩井崎プロムナードセンター		×	×	資源(施設)が全壊。利用不可能。	—
気仙沼市	海岸	お伊勢浜		×	×	資源(海浜)が消失。利用不可能。	—
	施設	はまなすステーション		×	×	資源(施設)が全壊。利用不可能。	—
	海岸	大谷海水浴場		×	×	資源(海浜)が消失。利用不可能。	—
	海岸	小泉海水浴場		×	×	資源(海浜)が消失。利用不可能。	—

(参考)

市町村	区分	資源名称		状況評価		特記事項	観光資源評価 ポテンシャル	
				資源	利用			
松島町	海岸	松島一帯の景観		◎	◎	影響は見られない。遊覧船や周辺施設、飲食店、物販施設なども多くが営業再開。観光協会を中心に影響状況、再開情報等を積極的に発信中。	A	
	社寺	松島一帯	瑞巖寺		◎	◎	影響は見られない。	A
			円通院		◎	◎	影響は見られない。	—
	五大堂		○	◎	資源の一部(灯籠、柵)が損壊。利用に影響は見られない。	B		
	施設	観瀾亭	活動対象	○	◎	資源の一部(柵)が損壊。利用に影響は見られない。	A	
			鑑賞対象	◎	◎	資源(眺望)に影響は見られない。		
	施設	マリンピア松島水族館		◎	◎	影響は見られない(浸水・汚損はあったが回復した)。4月末から営業再開。	—	
東松島市	海岸	野蒜(のびる)海岸		×	×	資源(海浜)が消失。利用不可能。	—	
	海岸	里浦		×	×	資源(海浜)が消失。利用不可能。	—	
	海岸	月浜海水浴場		×	×	資源(海浜)が消失。利用不可能。	—	

【一覧表の見方】

①市町村

当該観光資源が存在する市町村名。

②区分

観光資源台帳（財団法人日本交通公社）を参考に、下記の通り観光資源の区分を設定した。

（自然資源）原野／海岸／岬／島／岩石・洞窟

（人文資源）史跡／社寺／地域景観／現代建造物／博物館・美術館／施設／キャンプ場

③資源名称

市町村が発行、発信するパンフレット、ホームページを参考にして資源名称を記入した。

記入に当たっての主な方針は以下の通りである。

- ・ある観光資源を中心として一帯のものにとらえられる場合は、「●●一帯」とし、含まれる観光資源を列挙した。
- ・一つの観光資源でレクリエーションの場としての「活動対象」、景観や眺望として楽しむ「鑑賞対象」の2つの利用タイプがある場合は、それぞれの区分を併記した。

④状況評価

「観光資源そのものの状況」と「観光資源の利用の状況」の両面から評価した。

「観光資源そのものの状況」の評価基準

凡例	評価基準
◎	影響は見られない。
○	資源の一部について軽微な影響が見られる（人の手が入れば回復が可能である）。 例：汚損、瓦礫などの散乱 など
△	資源の一部について重大な影響が見られる（人の手が入っても回復できない部分がある）。 例：部分的損壊、浸水、巨大建造物の漂着、規模縮小 など
×	資源は元の姿を全く留めていない。 例：全壊、消失 など
—	目視による確認ができなかった。

「観光資源の利用の状況」の評価基準

凡例	評価基準
◎	影響は見られない。
○	一定の制約の上であれば観光利用が可能である。 例：一部が立入禁止、一部施設の営業停止、一部施設の利用不可能 など
×	現状では観光利用は不可能である。
—	目視による確認ができなかった。

⑤特記事項

「④状況評価」に関連するコメントを付した。

なお、本調査では、「観光資源そのもの」と、「当該観光資源を楽しむための設備（遊歩道、展望台等）や、利便・情報施設（トイレ、物販施設、ビジターセンター等）」を分けて考え、後者についての地震の影響等については本欄に記載した。

⑥観光資源ポテンシャル

観光資源台帳（財団法人日本交通公社）に記載がある観光資源については、その評価結果を付した。

観光資源台帳における評価基準

凡例	評価基準
SA	特 A 級：我が国を代表する資源でかつ世界にも誇示しうるもの。わが国のイメージ構成の基調となりうるもの。
A	A 級：特 A 級に準じ、その誘致力は全国的で観光重点地域の原動力として重要な役割をもつもの
B	B 級：地方スケールの誘致力をもち地方のイメージ構成の基調となりうるもの
—	観光資源台帳に記載がないもの

評価一覧表の構成（例：宮古市・浄土ヶ浜一带）

市町村	区分	資源名称		状況評価		特記事項	観光資源	
				資源	利用		ポテンシャル	
宮古市	海岸	浄土ヶ浜一带	浄土ヶ浜一带の景観 (遠景)	◎*	○*	資源(浄土ヶ浜一带の景観)には影響は見られない。モーターボート観光、貸ボート観光は営業を中止。7月を目処に観光船の再開と浄土ヶ浜エリアの復旧工事の完了を予定。(*関係者ヒアリングによる)	A	
	海岸		浄土ヶ浜	活動対象	○	×	資源(海浜)は一部瓦礫が散乱。遊歩道は一部、手すりの損壊や、路面が消失。	—
	海岸		蛸の浜	鑑賞対象 (近景)	○	○	資源(浄土ヶ浜一带の景観)は瓦礫などが散乱。遊歩道は一部、手すりの損壊や、路面が消失。	—
						資源(海浜)は一部瓦礫が散乱。浄土ヶ浜と蛸の浜をつなぐアクセス道が損壊しているため利用不可能。(*関係者ヒアリングによる)	—	

「浄土ヶ浜一带」に含まれる「浄土ヶ浜一带の景観」「浄土ヶ浜」「蛸の浜」を列挙

資源を楽しむための整備や施設については、資源には含まず、その状態を利用と合わせて特記事項で記述する

一つの資源で複数の利用タイプがある場合は、「活動対象」と「鑑賞対象」に分類

1-3 市町村別の調査結果

市町村ごとに「従前の観光資源の状況」「地震後の観光資源の状況」「観光復興に向けた所感」を取りまとめた。

(1) 久慈市

【調査日：平成23年5月19日～20日】

①従前の観光資源の状況

岩手県北東部の沿岸に位置する久慈市は、陸中海岸国立公園の北の玄関口となっており、北三陸ならではの奇岩や巨岩が観光資源となっている。全国有数の琥珀の産地でもあり、専門の博物館を擁す。

②地震後の観光資源の状況

<久慈市内陸部>

「久慈琥珀博物館」、「やませ土風館」が位置する久慈市の内陸部は地震の影響を受けておらず、2館共に通常通り営業中であり、通行についても影響は見られない。「久慈琥珀博物館」では、被災者の入館料を無料とし、やませ土風館では、震災当日及び復興活動の様子を写した写真展を開催している。



(写真) 左：久慈琥珀博物館／中央：やませ土風館／右：やませ土風館内での写真展

<侍浜海岸一帯>

侍浜岩場海水プールについては、岩場に造られたプール内に大量の砂利や岩などが散乱しており、これらの撤去ができれば、利用が可能である。



(写真) 左：侍浜岩場海水プールへの遊歩道／右：侍浜岩場海水プール

<久慈湾沿岸>

「久慈市地下水族科学館もぐらんぴあ」については、地震によって発生した津波で建物が全壊し、元の姿を全く留めていない。通行はできるものの、付近は瓦礫撤去作業中につき、現状では観光利用は不可能である。飼育していた約200種3,000匹のうち、生き残った8種20匹は青森県八戸市の市水産科学館が代わりに飼育しており、夏休みを目途に久慈市中心部での営業再開を目指している（朝日新聞5月15日朝刊）。



(写真) 左：もぐらんぴあ休館の案内看板／右：もぐらんぴあ周辺

<小袖海岸一帯>

小袖海岸一帯沿いの道路は地震によって発生した津波の影響で一部路肩の崩壊などの被害が見られるものの、通行は可能である。

小袖海岸を代表する景勝地である「つりがね洞」への影響は見られない。利用に当たっては、海岸と道路を結ぶ階段、標識、付近のガードレールは、津波による被害を受け損壊している。また、漂流物が海岸に打ち上げられており景観を阻害しているため、一定の制約の上であれば観光利用が可能である。

『北限の海女』として知られ、資料の展示や海の幸の直売などがされていた「小袖海女センター」は、平成 22 年 8 月にリニューアルされたばかりであったが、地震によって発生した津波により全壊し、元の姿を全く留めていない。隣接するトイレも消失している。海女の実演が見られた海岸は、一部遊歩道の欄干などの損壊がある。現状では観光利用は不可能である。



(写真) 左：つりがね洞／中央：つりがね洞周辺道路／右：つりがね洞撮影スポットの海岸への階段

③観光復興に向けた所感

沿岸部の人工の観光資源については、地震による津波によって全壊している状況で、全く元の姿を留めていない。再建するかどうかもを含め、今後の復興仮定の中で検討していく必要がある。一方、内陸部の観光施設、並びに沿岸部でも景勝地となる岩などの自然資源そのものには影響は見られないため、まずは現存の観光資源の利用を前提に、安全性に配慮したインフラ整備が、課題であろう。

(2) 野田村

【調査日：平成 23 年 5 月 19 日～20 日】

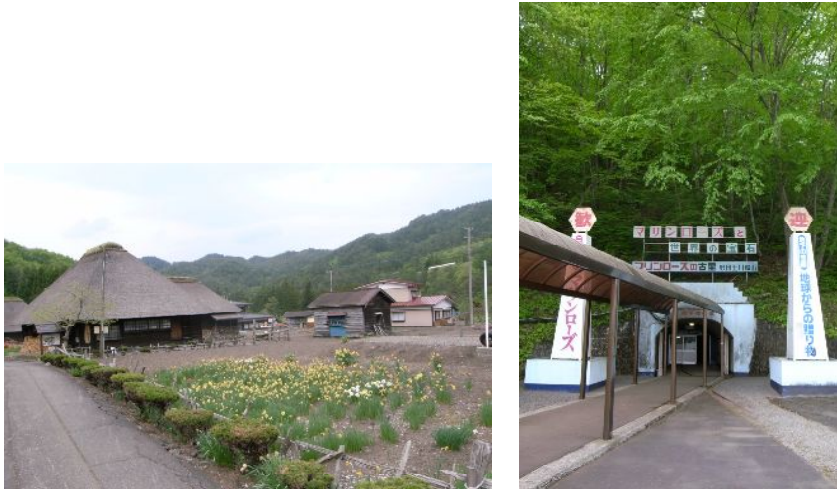
①従前の観光資源の状況

陸中海岸国立公園の北部に位置する野田村は、古くから製塩が行われ、東北の内陸部と沿岸部を結ぶ『塩の道』として重要な交易の場であった。村内の十府ヶ浦海岸一帯は、緩やかな弧を描く海岸線が約 3.5km に及ぶ海岸であり、海水浴場としても利用されてきた。

②地震後の観光資源の状況

<野田村内陸部>

「アジア民俗造形館」、「マリンローズパーク野田玉川」が位置する野田村内陸部は、津波の影響を受けておらず、2館共に影響は見られない。「アジア民俗造形館」については、視察時は休業中、6月1日より営業（野田村観光協会ウェブサイト）。両館共に通行についても影響は見られない。



(写真) 左：アジア民俗造形館／右：マリンローズパーク野田玉川

<十府ヶ浦海岸一帯>

美しい稿模様が特徴の「大唐の倉」については、影響は見られない。ただし、展望地となる野田港付近は瓦礫が散乱しているため、一定の制約のもとであれば観光利用が可能である。



(写真) 左：大唐の倉／右：大唐の倉周辺

「十府ヶ浦海岸」については、海浜は残ったものの、地震によって発生した津波により後背の園地や松林の大半が消失しており、景観的な魅力は大幅に損なわれ、現状では観光利用は不可能である。また、海岸の後背に形成されていた町の市街地も半分近くが消失するなど、元の姿を全く留めていない。



(写真) 左：野田村市街地／右：十府ヶ浦海岸

「西行屋敷跡」については、現地までの道路が通行禁止のため、資源の状況については確認できていない。



(写真) 西行屋敷跡へのアクセス道

③観光復興に向けた所感

内陸部の観光施設や沿岸部でも現存している自然観光資源を中心に、安全な利用のためのインフラ整備に努め、観光ルートを再構築に向けた検討が重要であると思われる。

(3) 普代村

【調査日：平成 23 年 5 月 22 日】

①従前の観光資源の状況

普代村は、海食断崖の勇壮な地形が見られる景勝地・黒崎（黒崎展望台、灯台）を中心として、キャンプ場が隣接する「普代浜」や、海浜レクリエーション施設を有する「まついそ公園」等を有する。

②地震後の観光資源の状況

<まついそ公園周辺、大沢橋橋梁>

堀内漁港に隣接する「まついそ公園」は、磯場の他、海水ミニプール、ジャングルジム、バーベキューサイト等が整備され、家族客などに親しまれてきた。

地震により、堤防や親水性に配慮した護岸は残されたものの、園地内の構造物はほとんどが消失し、現在は利用できない状況である。隣接する堀内漁港も水産関連施設が全壊している。三陸鉄道北リアス線の中で絶好の視点場である沢川河口部にかかる「三陸鉄道・大沢橋梁」は、橋自体には影響は見られないが、眼下の沢漁港は堤防等が損壊している。



(写真) 左：まついそ公園／右：三陸鉄道・大沢橋梁

<普代浜周辺>

普代川河口部には、白い海浜が美しい普代浜があり、その後背地には松林の良好な環境を活かした普代浜園地キャンプ場が整備され、夏期は海浜レクリエーション地として人気を得ていた。

「普代浜」は地震後も残ったが、海浜はキャンプ場前の砂が大きく移動したため、キャンプ場周辺では砂浜が縮小している。また、「普代浜」の観光対象としての海岸景観は、後背地の松林の消失により、重大な影響が見られる。休業中であったレストハウスも流出した。また、後背地の「普代浜園地キャンプ場」に整備されていたトイレ、シャワー、炊事場等が消失している。

普代浜の後背地にある大規模な防潮水門により、普代川沿いの村中心部や集落においては地震による被害は見られない。



(写真) 左：普代浜園地キャンプ場／右：普代浜

<黒崎周辺>

150～200mに及ぶ断崖が連なり、北緯 40 度に位置する陸中海岸の景勝地の一つである黒崎一帯は、周遊観光時の立ち寄り地の 1 つとして人気を得ていた。また、「黒崎オートキャンプ場・黒崎キャンプ場」では、キャンプサイト（オートキャンプ 23 区画、一般キャンプ約 50 張）、共同炊事場（4 箇所）、トイレ（2 箇所）等が整備されていた。

「黒崎灯台」や展望台及びそこから海岸景観に影響は見られない。「黒崎灯台」や展望台自体も地震による影響は見られない。また近隣の「アンモ浦展望台」とそこから海岸景観も影響は見られない。

黒崎展望台周辺にある国民宿舎「くろさき荘」も被害は見られず営業している。また、「黒崎オートキャンプ場・黒崎キャンプ場」も地震の影響は見られない。



(写真) 左：黒崎灯台／右：アンモ浦展望台

③観光復興に向けた所感

代表的な海岸景勝地であり断崖上部の観光利用が中心となる黒崎一帯はほとんど被害が見られない。一方、当村のもう一つの魅力である海浜レクリエーション面では、景勝地でもあった「普代浜」や「まついそ公園」が地震により施設や松林等が消失している。今後活用を進めていく上では、安全面や景観に配慮した再整備が課題であると思われる。

(4) 田野畑村

【調査日：平成 23 年 5 月 22 日】

①従前の観光資源の状況

田野畑村は、陸中海岸北部の代表景観である北山崎や鵜の巣断崖の海岸観光に加え、近年は漁村の生活文化資源を生かした『番屋ツーリズム』をコンセプトに、番屋体験やサップ船ツアーなどの体験型観光を推進してきた。

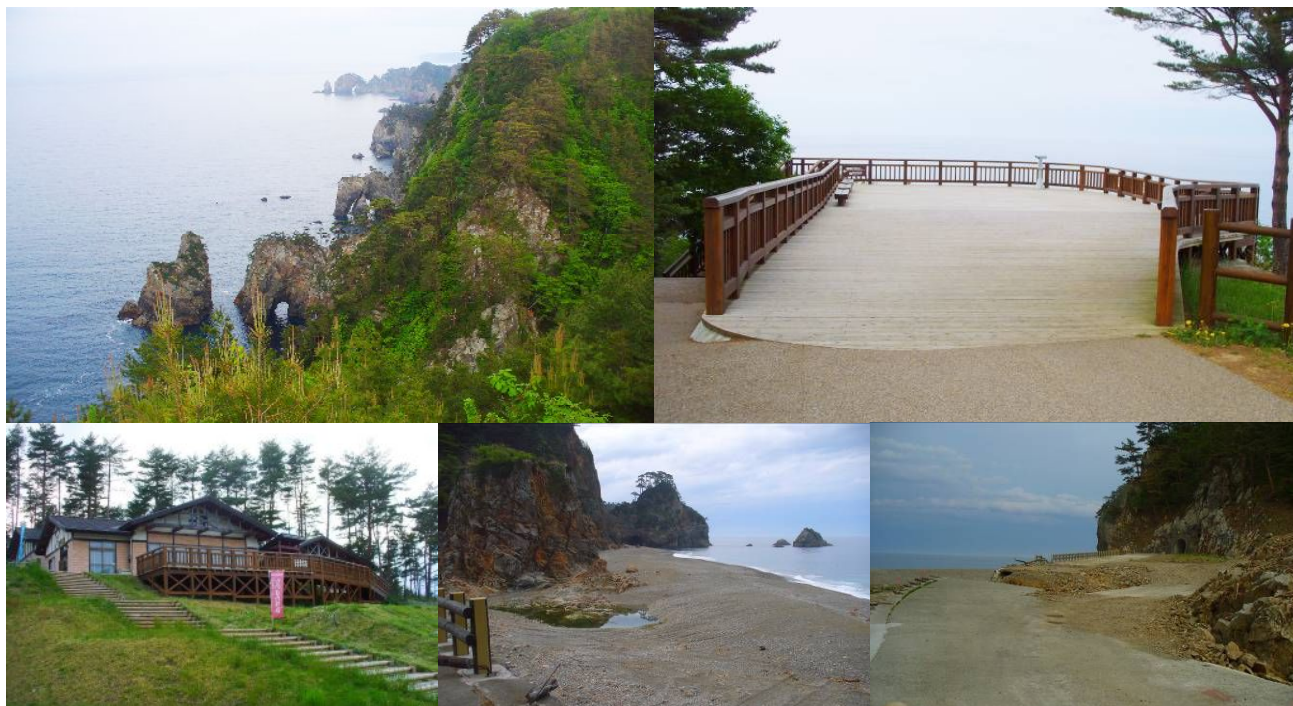
②地震後の観光資源の状況

<北山崎周辺>

200m の断崖景観が魅力の「北山崎」は、陸中海岸国立公園を代表する景勝地であり、当財団の観光資源台帳において特 A 級資源に評価されている。また「北山崎」を経て弁天崎まで海岸沿いに整備されている「北山崎自然遊歩道」は『日本の遊歩百選』に指定されている。

「北山崎」は、視点場である第 1 展望台及びそこから海岸景観に地震による影響は見られず、第 2、第 3 展望台にも影響は見られない。周辺施設である駐車場、園地、北山崎ビジターセンター、土産品店・飲食店（4 軒）等、断崖上部の施設についても影響は見られない。断崖下に点在する海浜は地震による被害が見られ、特に海浜への通行のための道路や遊歩道の損壊、後背地の番屋の消失、海浜の形状の変化等の影響が見られる。なお、「北山崎自然遊歩道」は、上記被害及び隧道の安全性等の点から現在海岸部の通行はできない。

※北山崎一帯の断崖に自生する岩手県の天然記念物「シロバナジャクナゲ群落」への被害は未確認。



(写真) 上段左：第 1 展望台からの北山崎／上段中央：北山崎第 1 展望台
下段左：北山崎ビジターセンター／下段中央・右：北山浜

<机浜番屋群周辺>

机地区の海岸部には、断崖景観に囲まれた机漁港と約 30 棟の漁師番屋が集まる「机浜番屋群」があり、番屋群は水産庁『未来に残したい漁業漁村の歴史文化財産百選』に選定されている。この地区は、サップ船アドベンチャーズや番屋ガイドなど漁村の暮らしをテーマとしたエコツアーの舞台として活用されてきた。

地震により、机漁港は堤防が横倒しになり岸壁の崩落も見られるなど大きく損壊しており、番屋群や新たに体験施設として整備した体験番屋、トイレ等は全て消失している。



(写真) 左：机浜番屋群（地震の前の様子）／右：机浜番屋群跡

<明戸キャンプ場周辺>

明戸浜の後背地は、堤防内側の広大な松林の中に「明戸キャンプ場・マレットゴルフ場」が整備され、村民や県内客のレクリエーションに利用されてきた。

津波高が堤防を大きく越える高さであったため、ほぼ全ての松林及び施設が消失しており、堤防そばの田野畑村漁協さけ・ます孵化場の建屋も全て消失している。地震に伴う津波被害は内陸の集落にまで及んでいる。



(写真) 左：明戸キャンプ場があった松林／中央：損壊した堤防／右：明戸浜

<鵜の巣断崖周辺>

「鵜の巣断崖」は、「北山崎」と並ぶ景勝地であり、断崖手前の駐車場・トイレ（鵜の巣断崖さわやかトイレ）、松林内の散策道（約500m）、展望台等が整備されている。「鵜の巣断崖」下の真木沢海岸から島越に至る海岸沿いは、隧道でつながった「鵜の巣断崖自然遊歩道」として、断崖と小さな浜が連続する景観を歩きながら楽しむコースとなっていた。

断崖上部に位置している各施設の地震による影響は見られず、展望台からの海岸景観にも影響は見られない。鵜の巣断崖駐車場から断崖下の真木沢海岸に降りる遊歩道は地震による倒木が多く、断崖下の真木沢海岸も奥地まで津波の被害を受けたため、漂流物などが散乱している。「鵜の巣断崖自然遊歩道」は隧道の安全性等の問題で通行禁止となっている。



（写真） 左：鵜の巣断崖展望台／中央：展望台からの鵜の巣断崖景観／右：真木沢海岸

③観光復興に向けた所感

代表的な資源が海岸部に集積しているが、陸中海岸国立公園の代表的な景勝地である「北山崎」、「鵜の巣断崖」とも、展望台からの海岸景観にはほとんど影響は見られず、資源価値は損なわれていない。展望台周辺の施設にも影響は見られないことから、今後の観光利用面での大きな支障はないと考えられる。

しかし、断崖下の遊歩道、海浜、海岸などでは損壊や消失等の影響が見られ、今後の海浜レクリエーション活用には、安全性の確認とともにトイレをはじめとする最低限の利便性の確保が課題であると思われる。また、シンボルであった机浜番屋群をはじめとする漁村風景や漁船の消失、漁港の損壊等、近年推進してきた地域の暮らしや生業と結びついた体験型観光への影響は大きく、新たなテーマの掘り起こし等が必要であろう。更にホテル羅賀荘が営業再開の目途が立たないことから、宿泊の受け入れ環境づくりも今後の大きな課題であると思われる。

(5) 岩泉町

【調査日：平成 23 年 5 月 21 日】

①従前の観光資源の状況

岩泉町は本州で最も広い町であり、内陸部では日本三大鍾乳洞に数えられ、国の天然記念物にも指定されている「龍泉洞」や、日本最長（10km）の鍾乳洞「安家（あつか）洞」、レクリエーション施設の「ふれあいランド岩泉」等の他、海岸部では奇岩地形の「熊の鼻」や「茂師海岸」を有する。

②地震後の観光資源の状況

<龍泉洞周辺、安家洞周辺>

「龍泉洞」や「安家洞」は、いずれも内陸部にあり影響は見られない。

<熊の鼻、茂師海岸周辺>

「熊の鼻」は、対岸の半島の形状が熊の頭と鼻先に似ているとされ、展望台から展望できる。展望台はアプローチが長いが、車での通行が可能で、展望台及びそこからの海岸景観に影響は見られない。ただし、展望台に設置されたトイレは、現在使用が禁止されている。

「茂師海岸」は、地名から『モシ竜』と名付けられた日本で初めて草食性大型恐竜の化石が発見された地として有名であり、独特の海食地形で知られる。国道 45 号沿いに展望台があり、駐車場の一部が立入禁止となっているが、そこからの景観に影響は見られない。展望台直下の茂師漁港は地震の影響が大きく、茂師漁港では堤防や漁業関連施設が消失しており、そこからの「茂師海岸」の遊歩道は、瓦礫など（落石、テトラポット、流木等）が散乱しており立ち入ることができない。

※「モシ竜」関連資源への被害は未確認。



(写真) 上段左：熊の鼻展望台／上段中央：展望台からの海岸景観／上段右：展望台トイレ
下段左：展望台からの茂師海岸／下段右：茂師海岸（海岸部）

<ふれあいランド岩泉周辺>

町の観光・レクリエーションの拠点施設の一つである「ふれあいランド岩泉」は、海岸部よりやや内陸（約 20km）に位置しており、施設そのものには地震の影響が見られない。同施設には、オートキャンプ場やコテージ、多目的広場、パークゴルフ場などがあるが、現在、パークゴルフ場以外は被災者の受け入れ施設として利用されている。

③観光復興に向けた所感

海岸部に位置する観光資源は、「茂師海岸」、「熊の鼻」などであり、このうち、特に「茂師海岸」は津波による損壊が大きい。今後も引き続き観光資源として活用していくためには、再整備していくことが望ましい。

(6) 宮古市

【調査日：平成 23 年 5 月 23 日～25 日】

①従前の観光資源の状況

宮古市では、三陸地域の主要な立ち寄り箇所である「浄土ヶ浜」を擁しており、鑑賞対象（景勝地）、活動対象（海水浴、観光船による海上からの奇岩見学等）として様々な利用がされていた。また、環境省の『快水浴百選』に選出された三ヶ所の海水浴場や、これらの海水浴場周辺に整備されたキャンプ場や、本州最東端である「トドヶ崎」などを有する。また、陸中海岸に属する他の市町村の中では 550 室と最も宿泊収容量が大きく、三陸観光の中心的な役割を担っている。

②地震後の観光資源の状況

<浄土ヶ浜地区>

「浄土ヶ浜」に影響は見られない。高台に位置する環境省のビジターセンター、浄土ヶ浜パークホテル、駐車場、展望台に影響は見られない一方、浄土ヶ浜観光の目玉でもあった観光船は、2 艘のうち 1 艘が陸へ打ち上げられ、地震以後、営業中止となっている。また、沿岸部に位置するレストハウス、マリンハウスは一度浸水したため、一部損壊、沿岸部のトイレは全壊しているため、現状では利用不可能である。遊歩道は舗装や手すりが損壊しており、一定の制約の上であれば利用可能である。（遊歩道については震災前、寒波による被害から一部通行禁止となっていた。）「蛸の浜」は瓦礫などが散乱しており、その一部について軽微な影響が見られる。橋の損壊により、浄土ヶ浜から蛸の浜までの遊歩道は通行不可能であり、現状では利用不可能である。浄土ヶ浜一帯近隣の「県立水産科学館」への影響は見られない。

宮古市街を通過する際には、一部で信号機が機能していない箇所があるが、浄土ヶ浜一帯までは通行可能である。宮古市では、浄土ヶ浜エリアの早期営業再開を視野に入れ、7 月を目処に、観光船の営業再開と施設整備を進めていく意向である。



(写真) 上段左：浄土ヶ浜レストハウスと遊歩道／上段中央：浄土ヶ浜周辺遊歩道／上段右：トイレ（マリンハウス付近）
下段左：トイレ・東屋（遊歩道付近）／下段中央：浄土ヶ浜／下段右：浄土ヶ浜展望台

<重茂地区>

重茂地区には本州最東端岬である「トドヶ崎」があり、トドヶ崎へ通じる自然遊歩道（約4km、1時間程度）は、地震により歩道の一部が損壊しており、一定の制約の上であれば利用可能である。

また、自然遊歩道の出発点には「姉吉キャンプ場」が整備されている。キャンプ場の目の前には姉吉浜があり、釣り、ハイキングなどを中心に利用されていた。「姉吉キャンプ場」、姉吉浜は地震の影響により、全て消失しており、元の姿を全く留めていない。観光資源が沿岸部に点在している重茂地区では、従来通りの利用には時間を要するものと考えられる。



(写真) 上段左：姉吉キャンプ場（シャワー室）／上段中央：姉吉キャンプ場（炊事場）／上段右：姉吉浜付近

下段左：トドヶ崎遊歩道入口付近／下段中央：トドヶ崎遊歩道（津波浸水エリア）／下段右：トドヶ崎遊歩道（津波浸水していないエリア）

<田老地区>

環境省『日本の快水浴場百選』に選ばれた「真崎海岸」は立ち入り禁止となっており、通行できない。「沼の浜キャンプ場」は地震により消失している。「三王岩」への影響は見られない。



(写真) 左：真崎海岸入口付近／中央：沼の浜キャンプ場（トイレ）／右：三王岩の眺望

< 崎山地区 >

環境省『日本の快水浴場百選』に選ばれた「女遊戸海水浴場」や、海水浴場から徒歩2分に位置する「中の浜キャンプ場」では、家族連れや若者を中心に多くの観光客でにぎわっていたが、地震以後、キャンプ場は消失しており、元の姿を留めていない。「女遊戸海水浴場」は、瓦礫などが散乱しており、利用不可能である。景勝地である「姉ヶ崎」への通行道は地震による影響は見られず、展望台へ通行可能である。なお、姉ヶ崎フィールドハウスはその機能を浄土ヶ浜ビジターセンターへ移行したため、営業中止となっている。「潮吹穴」は、遊歩道が整備されているが、倒木のため通行禁止となっている。



(写真) 上段左：女遊戸海水浴場／上段中央：中の浜キャンプ場（トイレ）／上段右： 中の浜キャンプ場（炊事場）
下段左：姉ヶ崎展望台への通行道／下段中央：姉ヶ崎展望台からの眺望／下段右：潮吹穴遊歩道入口

③観光復興に向けた所感

従来から宮古市の観光の中心であったリアス式海岸特有の景観資源への影響は少ないものの、周辺のインフラやアクセス道に地震の影響が見られる。まずはトイレ、遊歩道、レストハウスなど便民施設の復旧と、観光船などのアクティビティの早期再開が望まれる。また、環境省『日本の快水浴場』に選出される海水浴場3ヶ所（真崎海岸、女遊戸海岸、浄土ヶ浜海水浴場）にはキャンプ場が併設されており、海水浴とキャンプ場が合わせて利用されていたが、今回の地震によりキャンプ場が消失しており、従前通りの利用へ回復するためには時間を要すると思われる。復興に当たっては、景勝地周辺のインフラを優先的に回復させ、海岸や沿岸部に位置するキャンプ場については、中長期的な視点に立った復興が必要だろう。

(7) 山田町

【調査日：平成 23 年 5 月 16 日】

①従前の観光資源の状況

山田町には、「オランダ島」、「荒神海水浴場」といった海水浴利用を主とした資源があり、夏場は家族連れ客でにぎわっている。また、同町には「赤平金剛」、「大釜崎」といった景勝地が点在している。船越半島の付け根部分に「鯨と海の科学館」があり、観光の核となっている。

②地震後の観光資源の状況

<タブの大島>

「タブの大島」は、大槌町方面より国道 45 号線で船越半島方面へ北上する手前に存在する「四十八坂」から鑑賞することができる。は、四十八坂からは、「タブの大島」だけでなく、船越半島の集落と太平洋を一望することができる。

「タブの大島」の利用に当たっては、四十八坂展望台の柵が地震により損壊し一部スペースは立ち入り禁止となっているが、一定の制約の上であれば観光利用が可能である。また、併設のドライブインは営業を行っている。四十八坂は JR 山田線の最寄り駅より離れており、もともと徒歩利用が困難な地点である。車での通行は可能であるため、観光利用に関する問題は少ないといえる。



(写真) 左：四十八坂入口看板／中央：損壊した柵／右：タブの大島 (写真右奥)

<鯨と海の科学館>

「鯨と海の科学館」は、船越半島の付け根部分に位置する博物館である。周辺に存在していた船越家族旅行村の関連施設は損壊している。

「鯨と海の科学館」の建物自体は、目視では影響は見られない。しかし、同施設の利用にあたっては、周辺ががれき置き場となっている状況であり、現状では観光利用は不可能である。報道によると、展示物の多くは浸水被害に遭ったものの、目玉であるマッコウクジラの骨格標本はそのままの状態に残っており、職員らが再開に向けて展示物の修復作業を進めている（平成 23 年 4 月 4 日付読売新聞、4 月 7 日付 NHK）。



(写真) 鯨と海の科学館 (写真中央の白い建物) とその周辺

<船越半島>

船越半島内には、「荒海海水浴場」と「大釜崎」、「赤平金剛」がある。「荒海海水浴場」の利用に当たっては、荒神地区への道路が通行禁止となっており、現状では観光利用は不可能である。「大釜崎」、「赤平金剛」の利用に当たっては、船で鑑賞する資源という特性上、町内の漁港が損壊している状況であり、現状では観光利用は不可能である。半島内の沿岸部は、甚大な被害を受けている。半島内の道路状況は悪く、ガードレールの損壊や道路のひび割れが起きている。



(写真) 左：船越港／中央：澁磯海岸／右：半島内の道路

<オランダ島、明神崎>

「オランダ島」は、夏期に山田漁港からの連絡船が運航されており、海水浴場として利用されている。オランダ島の利用に当たっては、山田漁港の観光船発着所が損壊している状況であり、現状では観光利用は不可能である。「明神崎」は町の北部にある景勝だが、同地も船から鑑賞する資源であり、漁港が損壊している状況から、現状では観光利用は不可能である。



(写真) 左右ともに山田漁港

③観光復興に向けた所感

山田町は、船から鑑賞する資源が多く、町内や釜石市の漁港復旧と、観光船を確保しない限りは観光利用が困難であると考えられる。「四十八坂」の展望台は施設の一部（柵）に軽微な影響が見られるが、柵が復旧すれば震災以前と同様の観光利用が可能である。

船越家族旅行村や山田漁港近辺の宿泊施設が損壊しているため、現状で宿泊客の受入は困難である。漁港と観光船が復旧した段階で、景勝地を巡る日帰りツアー等による観光振興が可能性としてあげられる。

(8) 大槌町

【調査日：平成 23 年 5 月 16 日】

①従前の観光資源の状況

大槌町には、海水浴やサーフィンのスポットとして知られている「浪板海岸」がある。周囲には、キャンプ場や宿泊施設もあり、夏期は家族連れでにぎわう。

②地震後の観光資源の状況

<浪板海岸周辺>

「浪板海岸」は、海浜と松林の大部分が消失している。浪板海岸の利用にあたっては、国道 45 号線沿いの歩道下はがれきの撤去が完了しておらず、立ち入り禁止の掲示がある状況であり、一定の制約の上であれば景色を楽しむ程度の観光利用が可能である。

海岸付近にはキャンプ場、交番、サーフショップが所在していたが、消失している。海岸の南側には宿泊施設（浪板観光ホテル）が営業していたが、津波により 3 階部分まで浸水している。5 月 31 日現在、同ホテルは営業を休止している（出典：<http://www.tb.mlit.go.jp/tohoku/saigai/ks.pdf>）

海岸へは、国道 45 号線が開通しているため、釜石方面からも山田町方面からも車により通行可能である。しかし、JR 山田線が 6 月 2 日現在、釜石～宮古駅間の上下線で終日運転を見合わせているため、最寄り駅である浪板海岸駅からの観光利用が不可能である。



(写真) 左：国道 45 号線と繋がる階段前の掲示／中央：浪板観光ホテル全景／右：海岸全景

③観光復興に向けた所感

大槌町は町全域が甚大な被害を受けており、沿岸部における多くの建造物が全壊、損壊している。観光施設や宿泊施設もその例外ではない。観光客受け入れは、これらの施設や鉄道によるインフラを復旧と復興の方向性と大きく関わると思われる。

浪板海岸をはじめとした海岸の観光資源は、海浜そのものが消失している箇所が多い。人工海浜を造成しない限りは、中長期的に見ても海水浴による観光利用は難しいと考えられる。浪板海岸ではサーフィンスポットとしての利用も行われていたが、利用の再開に向けては、漂着物、汚染物の撤去や安全確認が必要条件となるであろう。

(9) 釜石市

【調査日：平成 23 年 5 月 30 日】

①従前の観光資源の状況

釜石市は、近代製鉄の発祥の地として日本の発展に貢献してきた街で、陸中海岸の交流拠点であり、豊かな自然と海の幸にも恵まれている。海浜や半島といった、自然の地形により形成された観光資源のほか、「釜石大観音」や「鉄の歴史館」といった人文資源も点在している。

②地震後の観光資源の状況

<箱崎半島周辺>

箱崎半島の北側の付け根に位置する「根浜海岸」は、地震の影響により一部消失しており、元の姿を全く留めていない。このため現状では観光利用は不可能である。



(写真) 左：根浜海岸／中央：箱崎半島への南側からの進入道路／右：鶴住居町付近

<釜石港・鎌崎半島>

釜石港には、深度についてギネスブックに登録されている「釜石港湾口防波堤」があるが、地震の影響は見られず、利用にあたっては影響は見られない。この防波堤への通行にも影響は見られない。倉庫だったと思われる建物が半壊しており、瓦礫も若干散乱しているが、かなり片付けられている。ホテルと旅館が一軒ずつ見られたが、いずれも損壊していた。

釜石港周辺にある鎌崎半島には、「釜石大観音」と「鉄の歴史館」がある。「釜石大観音」は、入館は可能であるが、3 階までの入場となっており、展望台の利用は不可であるため、一定の制約のうえであれば観光利用が可能である。通行には影響は見られず、有料駐車場も営業していた。付近には宿泊施設が 2 軒あり、外見上の影響は見られなかった。飲食施設も複数あり、外見上の影響は見られなかった。

「鉄の歴史館」は、外見上の影響は見られなかったが、自衛隊の拠点となっていたため、現状では観光利用は不可能である。



(写真) 左：釜石港湾口防波堤／中央：釜石港付近倉庫／右：釜石港付近ビジネスホテル



(写真) 左：釜石大観音外観／中央：釜石大観音の敷地内歩道／右：釜石大観音内展望台への通路

③観光復興に向けた所感

釜石市は、海岸付近は地震の影響を直接的に受けているため、散乱している瓦礫や損壊している建物などが目立つ場所も多い。そのため、これらの撤去が進まない限りは、従前のような観光客の利用は難しいと考えられる。

また、瓦礫の撤去等が進めば、釜石港周辺の観光資源の被害は比較的軽微であり、外観からは影響が見られない宿泊施設や飲食施設も一定程度あることから、中長期的に見ればこれまでと同様の観光利用は可能であると考えられる。

なお、「根浜海岸」については、海浜そのものが消失していることから、人工海浜を造成しない限りは中長期的に見ても観光利用は難しいと考えられる。

(10) 大船渡市

【調査日：平成 23 年 5 月 30 日】

①従前の観光資源の状況

大船渡市では、国の名勝・天然記念物、日本の渚百選に指定されている「碁石海岸」が観光の核となっている。その他、漁師体験などの体験観光、三陸漁場でとれた魚介類を活かしたグルメ観光、白い海浜が人気の「吉浜海水浴場」などの魅力を持つ観光地である。

②地震後の観光資源の状況

<碁石海岸一帯>

碁石海岸一帯には、「碁石浜」、「碁石岬」、「穴通磯」など陸中海岸国立公園を代表する自然景観や、大船渡の市花でもあるツバキを植栽展示した「世界の椿館」などが点在する。「穴通磯」や「碁石岬」から見られる奇岩などの資源に影響は見られない。しかし、碁石海岸の名前の由来となった「碁石浜」については、地震の影響によって海浜の規模が縮小、面している道路が損壊しており、その一部について重大な影響が見られる。また、「世界の椿館」については、外観からの目視では影響は見られないが、施設内が損壊しており休館中であり、その一部について軽微な影響が見られ、現状では観光利用は不可能である。碁石浜前の民宿は休業中であったが、レストハウスや碁石岬前の売店は営業を再開していた。また、碁石岬にある公衆トイレも通常通り使用できる。なお、碁石海岸一帯に至るまでの道路が一部損壊し、段差が生じているが、走行に大きな問題はない。



(写真) 上段左：穴通磯／上段中央：碁石岬展望台／上段右：碁石岬展望台から見た風景

下段左：碁石岬前飲食施設／下段中央：碁石浜／下段右：世界の椿館外観

<吉浜海岸周辺>

吉浜湾の奥に位置する「吉浜海水浴場」は、地震により海浜が消失しており、元の姿を全く留めていない。利用に当たっては、海岸前の道路が損壊、残骸がそのままの状態となっており、現状では観光利用は不可能である。なお、付近の市街地は海岸から少し高台にあるため、目視では地震による影響は見られない。



(写真) 左・中央：吉浜海水浴場／右：吉浜海水浴場へのアクセス道路

③観光復興に向けた所感

吉浜海岸周辺、大船渡市街地周辺は、地震による被害により資源そのものが消失していることから、今後の観光利用は難しい。しかし、吉浜海岸に関しては、道路の復旧が進み、さらに、砂を入れることが可能であれば、周辺地域の被害が少ないため、中長期的には利用可能と考えられる。

一方、大船渡市の観光の核である碁石海岸一帯は、景勝地としての観光資源そのものの魅力は失われておらず、現状でも観光利用が可能である。一部道路の補修などが必要ではあるが、今後も、大船渡市の観光拠点となり得るだろう。

(11) 陸前高田市

【調査日：平成23年5月31日】

①従前の観光資源の状況

陸前高田市には、日本の渚百選に選定されている「高田松原」や沿岸部の島々といった自然資源のほか、「玉山金山跡」などの人文資源も点在している。

②地震後の観光資源の状況

<玉山金山跡周辺>

「玉山金山跡」は、陸前高田市の中でも気仙川からは距離のある山間にあったこともあり、地震の影響は見られない。利用に当たっても影響は見られない。付近にある簡易旅館玉の湯は営業中である。

玉山金山跡へは、内陸部からの通行は地震の影響は見られない。市街地側からは、気仙川に近いため瓦礫などが散乱しているものの、通行には影響は見られない。ただし、玉山金山跡は私有地であるため、立ち入りを禁じられている。ガイドツアーが実施されることはあるが、それ以外の利用は難しい。



(写真) 左・中央：玉山金山跡入り口／右：玉山金山跡に立地する宿泊施設（玉の湯）

<広田半島周辺>

広田半島は海に面しているものの、高台が多くまた湾状ではないため、海岸付近を除いて地震の影響は軽微である。広田半島は、ウミネコ繁殖地である「椿島」や、「黒崎神社」、「オートキャンプ場モビリア」があり、いずれも地震の影響は見られない。「オートキャンプ場モビリア」については、仮設住宅の建設など被災者の受け入れ準備が進んでおり、現状では観光利用は不可能である。ウミネコ繁殖地である「椿島」や、「黒崎神社」の利用に当たっては、影響は見られない。

広田半島へは、道路が損壊している場所がいくつかあるものの、仮設の砂利道を利用することで通行可能である。半島内の道路は多少の凹凸があるものの、地震による影響は軽微である。

広田半島内では、給水を求める張り紙が多数みられたため、上水道が止まっている可能性がある。



(写真) 左：青松島と椿島／中央：黒崎神社／右：黒崎神社本宮



(写真) 左：黒崎仙峡展望台／中央：オートキャンプ場モビリア／右：広田半島内の道路(消失)

<高田松原周辺>

「高田松原」は、海浜と園地が消失しており、元の姿を全く留めていない。一本だけ残ったといわれる松の木も枝葉はなく、国道 45 号線からは散乱している瓦礫の向こうにわずかに見えるのみであった。「海と貝のミュージアム」は損壊しており、その一部について重大な影響がみられる。

陸前高田市は沿岸部が津波によりほぼ流失しているため、そのほか商業施設もまったく見られない。



(写真) 上段左：海と貝のミュージアム／上段中央：高田松原／上段右：高田松原（一本だけ残ったといわれる松の木）
下段左：道の駅高田松原／下段中央・右：高田松原市街地

③観光復興に向けた所感

海岸付近は津波の影響を直接的に受けているため、ほぼ建物はなく、散乱した瓦礫が目立つ。陸前高田市の中核的な観光資源である「高田松原」が消失しており、また沿岸部の道路は橋の消失などにより寸断されているため、短期的および中長期的にみても、これまでと同様の観光客の利用は難しいと考えられる。

ただし、「玉山金山跡」や広田半島については、地震の影響は軽微であり、観光客の利用も一定程度は可能であると考えられる。

(12) 気仙沼市

【調査日：平成 23 年 5 月 25 日～26 日】

①従前の観光資源の状況

沿岸域は半島や複雑な入り江など、変化に富んだリアス式海岸を形成しており、唐桑半島や「岩井崎」は景勝地として利用されていた。全国有数の水揚げ高を誇り気仙沼湾の周辺は、魚市場などの海産物や港の景観など漁業に関わりの深い観光が根付いていた。「岩井崎」以南は遠浅の海岸線で、透明度の高い海と白い海浜は夏場の海水浴に利用されていた。

②地震後の観光資源の状況

<内湾・魚市場地区>

この地区は、魚市場や漁港を有する気仙沼の産業の中心地であったが、津波により建物の多くが浸水した。調査時、地区内の道路は“工事車両のみ通行可”“地盤沈下により浸水時通行不可”等の制約があり、湾周辺の宿泊施設（ホテル望洋等）は、復興工事関係者の拠点となっていた。

「気仙沼魚市場」および「海の市・氷の水族館（シャークミュージアム）」は、津波により 1 階部分が損壊し、営業を中止している。「海の道（出漁準備岸壁）」には、打ち上げられた漁船が撤去されずに残っている一方で、津波時に沖に出ていて被災しなかった漁船も着岸している。「魚町屋号通り」の情緒ある木造の建物の多くは損壊した。湾内を一望できる「神明崎・浮見堂」は、シンボルであった朱塗りの御堂が津波により損壊したものの、岬の上の神社への影響は見られなかった。魚市場などは、加工・流通を含めた漁業の復活が短期的には難しいことから、従来通りの観光客の受け入れには時間を要する。



(写真) 上段左：気仙沼市魚市場／上段中央：海の市・氷の水族館／上段右：魚町屋号通り

下段左：海の道（出漁準備岸壁）／下段中央：浮見堂／下段右：神明崎からの眺め

<唐桑地区>

唐桑半島の北側一帯は大理石の岩礁が連なり、「大理石海岸」も観光スポットの一つであるが、地震後は倒木や土砂崩れにより、海岸への道路が閉鎖されている。「巨釜・半造」は、遊歩道の一部は通行できないものの、海中から突き出た奇岩（折石）への影響は見られない。レストハウスやキャンプ場はボランティア拠点として利用されており、現在営業を停止している。

鳴き砂で知られる「九九鳴き浜」は、海浜には瓦礫などが散乱しているが、鳴き砂への影響は見られ

なかった。内陸にある「唐桑半島ビジターセンター（津波体験館）」への影響は見られず、通常通り営業していた。「御崎」については、遊歩道に倒木や崖崩れがあるなど、その一部に軽微な影響が見られたが、観光利用は可能であった。



(写真) 上段左：大理石海岸（駐車場）／上段中央：大理石海岸（遊歩道）／上段右：巨釜・半造（折石）
下段左：九九鳴き浜／下段中央：唐桑半島ビジターセンター（津波体験館）／下段右：御崎

<岩井崎地区>

陸中海岸国立公園の南端に位置する「岩井崎」については、岬からの眺望や潮吹き岩への影響は見られない。舗装やトイレが損壊しているものの、一定の制約の上であれば観光利用が可能である。「秀の山雷五郎像」は移動しているが像自体の損傷は見られない。「岩井崎プロムナードセンター」については、建物が骨組みを残し全壊しており、現状での観光利用は不可能である。「お伊勢浜」についても、一帯も津波により浸水し、周辺建物が全壊、海浜も消失している。



(写真) 上段左：岩井崎（入口付近）／上段中央：岩井崎（潮吹き岩）／上段右：岩井崎（秀の山雷五郎の像）
下段左：岩井崎プロムナードセンター／下段中央：お伊勢浜付近／下段右：お伊勢浜

<本吉地区>

「はまなすステーション」については、津波により2階部分まで浸水し、直結するJR大谷駅も損壊している。「大谷海水浴場」も海浜が消失していた。そのような状況の中で、隣接する駅は仮設トイレを設置するなどして営業を再開していた。震災前、白砂青松で知られる「小泉海水浴場」については、アクセス道路も舗装が損壊しているため、車で近づくことが難しい上、周辺一帯の建物が浸水し元の姿を全く留めていない。海浜自体も瓦礫が散乱、海浜が消失し現状での観光利用は不可能である。



(写真) 上段左：はまなすステーション／上段中央：JR大谷駅／上段右：はまなすステーション（大谷海岸道の駅）
下段左：大谷海水浴場／下段中央：小泉海水浴場付近／下段右：小泉海水浴場

③観光復興に向けた所感

「大理石海岸」や「岩井崎」では、資源についての影響はみられないが、気仙沼観光の目玉であった「気仙沼市魚市場」など漁業に関連する施設に重大な影響が見られる。直接的な観光資源ではないが、加工施設や冷蔵倉庫の倒壊、漁船の流出など気仙沼の最大の産業である漁業そのもののダメージが大きいことから、従前通りの利用には時間を要するものと考えられる。また、周辺のインフラ整備やアクセスの部分で地震の影響を受けており、これらの復旧が第一に望まれる。

一方、比較的被害の少なかった「巨釜・半造」では、駐車場やレストハウス、トイレ、キャンプ場がボランティアセンター拠点として利用されており、これらの活動が長期化した場合は、園内の利用にも影響がみられる。

(参考) 松島町・東松島市

【調査日：平成23年5月27日】

①地震後の観光資源の状況

＜松島地区（松島町）＞

東北を代表する観光地である松島一帯は、他地域に比べると地震・津波の被害の影響は軽微である。200余の松島の島々が津波を軽減させたと言われている。沿岸部の観光施設や商店街は津波によって1m程度の浸水があり汚損が見られる。沿岸の園地部分は柵や植木の汚損、流木・瓦礫などが見られ、一部に通行禁止の部分は残るものの、回復は進んでいる。

遊覧船の運行は通常に近い状態で再開されており、松島の景観を陸・海から眺めることに大きな支障はない。「瑞巖寺」、「五大堂」、「観瀾亭」などの歴史資源についても一部に地震による灯籠の倒壊などが見られる以外に大きな影響は見られず、通常通り観覧が可能な状況に回復している。観光施設である「マリニピア松島水族館」は1階部分の浸水など大きな被害はあったが建物に大きな影響はなく、安全点検を実施した上で4月末から営業を再開している。宿泊施設については沿岸部で1階部分の浸水が見られ、一部に修復中の施設もある。しかし沿岸部に立地していない施設も多く、大部分の宿泊施設は営業可能な状況である。沿岸部の土産品店、飲食施設は概ね営業を再開している。しかし、土産品店、飲食施設は海産物などの被害の影響で地元産の海産物が提供できない状況にある。

再開できていない観光施設などは雄島（渡月橋修復中のため）、福浦島（福浦橋修復中のため）、藤田喬平ガラス美術館である。

【参考：観光協会による復興情報の発信】

上記の状況の中で、松島観光協会では『松島観光復興情報』を定期的に発信し、観光施設、宿泊施設、飲食店、土産品店の営業状況を観光客、旅行会社などに発信している。

<p>がんばろう東北・宮城！ 松島観光復興情報 vol.3 <small>平成23年5月20日 ～5月31日まで</small></p>	
<p>東日本大震災で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。この大震災を乗り越えて松島はいち早く復旧し、「松島から元気を発信していこう」と頑張っています。お客様の元気と地元松島の元気で東北を一緒に盛り上げましょう。会長 佐藤久一郎 発行：(社)松島観光協会 住所：松島町松島字町内98-1 TEL：022-354-2618 FAX：022-354-6196</p>	
<p>☆頑張る！松島トピックス☆ 【瑞巖寺 上段の間・上々段の間特別公開】…4/8～5/31まで 政宗公が産る上段の間と天皇・将軍が産る上々段の間をオリジナルの障壁画（国指定重要文化財）とともに瑞巖寺宝物館にて展示しています。 【マリニピア松島水族館 ベンギンの赤ちゃん誕生】 震災後誕生した復興のシンボル・可愛いベンギンの赤ちゃんが水槽にいます。 【松島十二支記念館 フリーマーケットと産直市、落語会開催】…5/22 5月22日10時～15時まで、フリマと産直市を開催。無料の落語会もあります。</p>	
<p>◎文化観光施設・松島湾遊覧船について ・瑞巖寺…拝観可能 特別公開中の寶華殿（ほうげでん）も拝観できます。 ・円通院…拝観可能 数珠作り体験もできます。 ・五大堂…拝観可能 「縁結びの橋」といわれる透かした橋を渡れます。 ・マリニピア松島水族館…見学可能 大人気のアシカショー毎日開催中。 ・みちのけ伊達政宗歴史館…見学可能（入館料半額：大人500円）パフェが人気 ・観瀾亭…4月29日から見学可能 庭からの風景が楽しめます。大人100円 ・松島湾遊覧船…松島⇄松島コース お車で松島にお越しの方にお勧めです。 松島⇄塩釜コース 電車で仙台に帰られる方にお勧めです。 ・松島十二支記念館…見学可能 物産館：「大津波に耐えた島々」の原画展開催中 ・松島レトロ館…見学可能 大正・昭和の時代にタイムスリップできます。 ※以下の施設は修復中等につき見学ができません ・雄島（渡月橋修復中） ・福浦島（福浦橋修復中） ・藤田喬平ガラス美術館</p>	
<p>◇松島町内 宿泊施設再開情報 市外局番は共通（022）です。 ※空室・料金等は直接各宿泊施設にお問い合わせ下さい。 ①ホテル 松島大観荘 …宿泊可能 ※日帰り入浴可能 TEL:354-2161 ②「グラーズベイク」リゾート松島 …宿泊可能 TEL:353-8333 ③リゾートイン松島 …宿泊可能 TEL:355-0888 ④湯ノ原温泉 霊泉亭 …※日帰り入浴可能 TEL:354-2323 ⑤ホテル大松荘 …宿泊可能 TEL:354-3601 ⑥ホテル絶景の館 …宿泊可能 TEL:354-3851 ⑦ホテル海風土 …宿泊可能 ※日帰り入浴可能 TEL:355-0022 ⑧松ぼっくりの宿 翠松亭 …宿泊可能 TEL:354-3221 ⑨花ごころの湯 新富亭 …宿泊可能 ※日帰り入浴可能 TEL:354-5377 ⑩旅館 もとみ荘 …宿泊可能 素泊まりのみ TEL:354-3511 ⑪パレス松洲 …宿泊可能 ※日帰り入浴可能 TEL:354-2106 ⑫松島佐助松庵 …宿泊可能 TEL:354-3111 ⑬旅館 青雲閣 …宿泊可能 TEL:353-8501 ⑭「アチル」ピオとろアパロン …宿泊可能 TEL:354-5777 ⑮ホテル 牡蠣 …復興関係者のみ宿泊可能 TEL:354-2181 ⑯松島 一の坊 …復興関係者のみ宿泊可能 TEL:353-3333 ⑰旅館 光 …復興関係者のみ宿泊可能 TEL:354-2505 ⑱活魚の宿 漁業部松島店 …復興関係者のみ宿泊可能 TEL:342-0109 ⑳松島センチュリーホテル …土日のみランチ営業してます TEL:354-4111</p>	
<p>◇車で越しのお客様へ！ 利用可能駐車場情報 ・松島公園第一駐車場（普通車26台） ・松島公園第二駐車場（バス専用22台） ・松島公園第三駐車場（普通車58台） ・松島公園第四駐車場（普通車30台） ・松島公園第五駐車場（普通車約200台） ・菊地駐車場（普通車130台） ・色川駐車場（普通車20台） ・松谷駐車場（普通車20台） ・三十刈町営無料駐車場（普通車150台） ・石森駐車場（普通車60台）</p>	
<p>◇JRご利用のお客様へ！ JR運行情報（5月20日付） 【仙石線】仙台～東塩釜が運行中。東塩釜から松島海岸へは代行バスが運行中。 ※仙石線運行再開予定 仙台～松島海岸～高城町（5月下旬） 【東北本線】仙台～一関が運行中。松島駅をご利用下さい。</p>	

◇お待ちしております！ 松島営業再開店舗情報 (5/31まで)		
・味処 双観山	…営業中	日中のみの営業でお待ちしております。
・松島庵(蕎麦)	…営業中	11:00～蕎麦なくなりしたい終了
・相原商店	…営業中	レンタサイクルで松島観光できます。
・牛たん利久松島店	…営業中	牛たん弁当もあります。
・喫茶・軽食はせくら	…営業中	期間限定海鮮メニューもあります。
・松月食堂	…営業中	ラーメンなどメニュー変わらない営業です。
・陸奥物産店	…営業中	松島ならではのお土産をどうぞ。
・松島さかな市場	…営業中	お土産・食事も可能です。
・さん直屋 F・F 磯崎	…営業中	松島産の農水産物をどうぞ。
・松寿し	…営業中	女性親方の粋なにぎりをお楽しみください。
・サンクス高城店	…営業中	ATMも利用可能です。
・豊漁部松島店	…営業中	17:00～23:00まで営業。ランチもあります。
・松島玉手箱館	…営業中	休憩スペース・トイレあります。
・パン七松島店	…営業中	名物カキカレーパンをどうぞ。
・酒のむとう屋	…店舗2階で営業中	東北の地酒をどうぞ。
・独まん・松華堂	…営業中	五大堂を眺めながらカステラとカフェを。
・食事処松島浪漫亭	…営業中	海鮮丼が一番人気です。
・れすとらん海音	…営業中	土日限定で特別な昼食をどうぞ。
・杉原功商店	…営業中	松島湾の磯の幸をお土産にできます。
・カフェ・ペイランド	…営業中	福浦島を眺めながらの軽食をどうぞ。
・松島観光ガイド社	…営業中	瑞巖寺・葦原殿を詳しくガイドします。
・西岡物産	…営業中	五大堂に来たら是非立ち寄ってください。
・伊藤時尾酒店	…営業中	限定地酒「時尾」も販売中。
・梅茶屋	…営業中	鴨鍋も再開しました。
・田里津庵	…営業中	リニューアルオープン。11:00～16:00まで。
・ペロタクシー	…営業中	地球に優しいペロタクシーで観光をどうぞ。
・二人屋物産店	…営業中	こけしの絵付け体験もできます。
・松吟庵	…営業中	復興特別価格でお料理を提供中。
・げんぞう	…営業中	磯焼きをお楽しみください。
・牛たん赤間	…営業中	メニュー一新。牛たんをどうぞ。
・お食事処 きくや	…営業中	昔ながらのラーメン、磯焼きをどうぞ。
・寿司幸 松島海岸店	…営業中	磯崎店も営業中です。
・松島観光物産館	…営業中	「津波に耐えた島々」の原画展開催中。
・食事処なかさと	…営業中	壁の上で磯焼きや昼食を楽しめます。
・表稲房おりこ乃	…営業中	カキ料理も提供しています。
・鈴木屋物産店	…営業中	五大堂の目の前のお土産屋さんです。
・桜井食堂	…営業中	朝早くから夜遅くまで営業しています。
・ジェラート ボゴロ	…営業中	松島唯一のジェラート専門店です。
・阿部蒲鉾寺町小路店	…営業中	宮城名産のかまぼこをどうぞ。
・業匠三全寺町小路店	…営業中	銘菓「萩の月」等、宮城の甘味をどうぞ。
・どんじき茶屋	…営業中	昔ながらのずんだ餅。赤朴もお蕎麦も。
・たい夢松島店	…営業中	おやつにお勧めのたい焼き屋さんです。
・漁業組合直売所	…営業中	暑い日にはソフトクリームがお勧めです。
・居酒屋 六文銭	…営業中	地元で人気のアットホームな居酒屋さんです。
・プリペイル1	…営業中	松島の夜は歌って踊れるスナックでどうぞ。
・スナック 葵	…営業中	宿泊施設の浴衣でお気軽どうぞ。

◎もし観光中に強い余震がきたら	
【屋内編】	<ul style="list-style-type: none"> ・天井からの落下物や窓ガラス等に気をつけて安全な場所に避難しましょう。 ・慌てて出口や階段に殺到しないように、係員の誘導に従いましょう。 ・外に出るときは落下物に注意して、エレベーターを使わないようにしましょう。
【屋外編】	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅地のブロック壁などが倒れる危険があるので、崩から離れましょう。 ・屋根瓦や窓ガラスなどの上からの落下物に注意しましょう。
【乗物編】	<ul style="list-style-type: none"> ・車は急ブレーキをかけず、ハザードを出して道路の左側に停車しましょう。 ・揺れがおさまるまで車外に出ずに、カーラジオで情報を入手しましょう。
【津波警報があったら】	<ul style="list-style-type: none"> ・海岸から離れ、高台に避難しましょう。
※津波避難場所（事前に地図で避難場所を確認しましょう。）	
①新富山展望台 ②瑞巖寺（裏側） ③日吉山玉神社 ④三十刈町営無料駐車場	
⑤ホテル松島大観荘	



(写真) 上段左：沿岸部の商店街／上段中央：遊覧船の様子／上段右：マリンピア松島水族館
下段左：園地展望台) ／下段中央：五大堂／下段右：観欄亭

<奥松島地区（東松島市）>

奥松島地区は市街地の約65%が浸水するなど、津波浸水区域の割合は震災被害市町村の中でも最も高くその被害も甚大である（東松島市HPより）。

特に松島から奥松島（宮戸島）に至るルートは道路の地震の影響が大きく、現状での観光利用は不可能である。

観光資源である多くの海水浴場も大きな影響があり、瓦礫などの散乱とともに海浜が消失するなど、観光利用にはまだ時間を要する。



（写真）上段左・中央・右：野蒜海岸周辺

下段左：野蒜海岸周辺／下段中央大高森周辺／下段右月浜海水浴場周辺

②観光復興に向けた所感

東北の観光の中心である松島の景観への影響は少なく、観光船などのアクティビティや寺社、水族館等の観光資源もいち早く営業を再開している。今後の東北観光の復興の拠点として期待される役割は大きい。

一方、奥松島を含めた松島周辺地域は、地震による海浜の景観や海浜等の観光資源、食の魅力である水産資源等への影響が、大きい。そのため、松島を拠点として周遊観光を実施する際にはこれまでとは異なる観光資源、魅力を設定することが必要である。特に、資源そのものへの地震の影響が少なかった景勝地をつなぐ観光、再開している宿泊施設や飲食店、土産品店等と連携した観光の設定等、早期に可能な周遊観光を優先的に復興していくことが必要である。

第2章 陸中海岸地域の観光復興に向けた論点整理

2-1 観光資源の状況

(1) 資源（利用）タイプ別にみた状況

①自然資源

ア 海浜（海水浴場）

海水浴場としての海浜は、その多くが損壊した堤防の破片などの構造物が打ち上げられているなど、安全性や景観などの面で重大な影響を受けている。また、資源そのものに対する影響はゴミや流木、瓦礫の散乱などの比較的軽微なものに留まっていますが、シャワーやトイレなどの施設が損壊、消失しているなど、その多くが重大な影響を受けている。

イ 海浜（景勝地）

景勝地としての海浜は、その多くが、資源そのものが損壊などの重大な影響を受けていたり、または消失している。また、同時に海浜の背景としての松林なども、消失など重大な影響を受けているものもあり、一体的な景観ごと消失しているものも見られる。

海浜の景観は陸中海岸地域を象徴する重要な要素であり、また松林は防風林・防砂林としての機能や、緑陰を提供する機能など、観光以外の面でも機能が期待できることから、従前のような海浜と後背地の松林などが一体となった環境づくりに取り組んでいくことが望まれる。

また、団体バスや自家用車などによる周遊型の観光が中心である同地域においては、車窓からの海浜の景観も観光客にとっては地域イメージを印象づける重要な要素であることから、沿道からの視線も意識した景観づくりも必要となる。

ウ 島（遠景としての眺望対象）

遠景としての眺望対象としての島については、資源そのものに対する影響は比較的軽微なものに留まっていますが、例えば船上から楽しむものについては、遊覧船が営業停止しているために観光利用が不可能となっているなど、利用に当たって影響が見られる。

また、遠景からは影響が見られなくても、植生に重大な影響が見られるなど、近景として楽しむにあたって重大な影響が見られるものもある。

エ 岩・岬・島（洋上・陸上の展望施設からの眺望対象）

洋上・陸上の展望施設からの眺望対象としての岩や岬、島については、その多くが資源そのものに対する影響は見られない。また、その多くが展望施設などの利用の面でも影響は見られないが、一部において通行やトイレ施設などの安全性や利便性の面で軽微な影響が見られるものもある。

②観光施設・人文資源

ア 観光施設・キャンプ場

沿岸部に立地している観光施設やキャンプ場については、地震によって資源（施設）そのものが損壊や浸水といった重大な影響を受けているものがある。

一方、内陸部に立地しているものについては、その多くが資源（施設）そのものには影響が見られない。ただし、その場合にも施設が被災者の避難所や仮設住宅用地として利用されていたり、ボランティアセンターや自衛隊など震災復旧（復興）関係者の拠点として利用されていたりするなど、その多くは観光利用が不可能な状況にある。

また、海浜に隣接しているキャンプ場などは資源（施設）そのものが消失しているものがある。

イ 地域景観（町並みなど）

観光資源としての番屋などの漁村の街並みや港町の町並みのうち、沿岸部に立地しているものについては、損壊など重大な影響が見られるものや、資源そのものが消失しているものは少ない。

ウ 社寺仏閣

観光資源としての社寺仏閣は、その多くが内陸部（高台）に立地しており、影響は少ない。

（2）地域別にみた状況

①北部

洋上や陸上の展望施設から楽しむ対象としての岩や岬、島などの景観資源については、北山崎（田野畑村）や浄土ヶ浜（宮古市）、熊の鼻（岩泉町）など、主に陸中海岸地域の北部に多く分布しているが、それらについては資源そのものに対する地震の影響は比較的軽微なものが多い。ただし、そのような資源のうち、日出島やローソク岩（いずれも宮古市）など、船上から楽しむものについては、遊覧船が営業停止しているために観光利用が不可能となっている。

②南部

陸前高田市や大槌町などを中心とする陸中海岸地域の南部では、いわゆる「白砂青松（はくしゃせいしょう）」と呼ばれるような海浜とその背景としての松林などの景観が存在しているが、資源そのものが消失している場合もあり、その際には新たな観光魅力をもった資源を創出する必要がある。

③全域

三陸海岸観光において代表的な立ち寄り箇所である北山崎（田野畑村）、浄土ヶ浜（宮古市）、龍泉洞（岩泉町）といった観光資源については、資源そのものに対する地震の影響は比較的軽微であるが、観光資源を快適かつ安全に利用するためのトイレやゲストハウスなどの施設が被害を受けている。

海水浴場としての海浜については、十府ヶ浦（野田村）や普代浜（普代村）、真崎海岸、女遊戸（いずれも宮古市）、浪板海岸（大槌町）など、陸中海岸地域の全域にわたり、重大な影響を受けているものが見られる。

また、普代浜や女遊戸などの海水浴場では、海浜に隣接して立地するキャンプ場についても、それらの多くで資源（施設）そのものが消失している。

また、観光施設についてみると、もぐらんぴあ（久慈市）や鯨と海の科学館（山田町）海と貝のミュージアム（陸前高田市）など、陸中海岸地域の全般にわたり、沿岸部に立地しているものについてはほぼ例外なく地震に重大な影響を受けて営業を停止するなどしている。

一方、観光施設のうち、内陸部に立地しているものについては施設そのものに対する影響は見られないものの、施設が被災者の避難所や仮設住宅用地として利用されていたり、ボランティアセンターや自衛隊など震災復旧（復興）関係者の拠点として利用されていたりするなど、その多くは観光利用が不可能な状況にある。

2-2 観光復興に向けた論点

観光資源の現状を踏まえ、陸中海岸地域の観光復興に向けた取組を検討するに当たって、論点となることが想定される主な項目を以下の通り抽出した。

(1) 基本的な考え方

○地域社会（住民や地域団体）が主体となった観光復興の方向性の検討

○観光的な魅力を持ったコミュニティ（「結い」の力や知恵を活かした生活文化）の創出

○観光を活かした地域産業の育成（「漁業」と海資源を活用した観光の連携）

○陸中海岸地域らしい海辺の風景の創出

○非常時における観光客の安全確保（避難路の確保と日常的メンテナンス、非常時の情報伝達と避難誘導）

○周遊型観光を受け入れる宿泊拠点の創出

(2) 観光魅力の創出

○周遊型観光の復興

例：代表的な立ち寄り箇所であり、地震の影響が軽微な「北山崎」（田野畑村）、「浄土ヶ浜」（宮古市）、「龍泉洞」（岩泉町）を核とし、新たな内陸資源と組み合わせた周遊型観光の復興

○復興プロセスと観光の融合

例：ボランティア観光ツアー、復興の象徴としての高田松原の一本松の再生および植林、アワビやワカメのオーナー制度

○観光的視点に配慮したインフラ整備

例：観光対象となる港湾施設や堤防、車窓からの景観を意識した沿道の環境整備

○「陸中ジオツーリズム」のプログラム化

例：モニュメントパーク（被災状況の保存）、避難路にもなる遊歩道、陸中海岸地域に特有のリアス式海岸地形と地震の痕跡を活用した環境学習

○生活文化観光の推進

例：観光客が住民とふれあい、暮らしに学びながら地域に貢献する新しい観光・交流スタイル

○エコツーリズムを通じた地域資源の活用と管理

例：解説つきツアーの開発、海岸トレッキング、海辺の生き物観察

(付記事項)

- ・本調査における観光資源の状況把握や論点抽出に当たっては、調査員の目視によって把握できた範囲の情報を元にしており、詳細な状況把握については別途関係者への聞き取り調査などを行うことが必要である。
- ・本調査は観光客を引きつける魅力の源泉となる観光資源の状況把握に主眼を置いて実施したが、陸中海岸地域における観光振興を検討するに当たっては、下記のような項目についても、より詳細な状況把握を行うことが重要となる。

○宿泊業

- ・宿泊施設や事業者の状況

○農業・漁業

- ・機材や設備、人材の状況

○体験観光（自然体験プログラム）

- ・拠点とする施設
- ・使用する設備や機材
- ・実施のためのノウハウや人材

○交通・運輸

- ・鉄道（施設や設備、事業者の状況）
- ・バス（ 〃 ）

○土産品

- ・製造（施設や事業者の状況）
- ・販売（ 〃 ）